

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1485 号	氏名	倉田 博基
学位審査委員	主査	芦澤 和人	
	副査	中尾 一彦	
	副査	三浦 清徳	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、根治的切除後に高頻度に再発を来す上部尿路癌 (Upper urinary tract UC, UTUC) 患者における WW and C2 domain-containing 1 (WWC1) タンパク質および matrix metalloproteinases (MMPs) の臨床病理学的意義を明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 長崎大学病院において UTUC に対して根治手術を施行した 152 名を対象として、免疫組織学的手法で WWC1 および Ki-67、MMP-2 および MMP-9 の発現を視覚評価し、腫瘍の pTstage や grade (悪性度)、転移、再発の有無との関連を検討しており、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、WWC1 の高発現と pTstage や grade (悪性度) に負の相関がみられ、根治手術後の転移、再発の頻度も有意に低く、特に尿路外再発・転移の独立した関連因子であった。さらに、WWC1 の高発現は、Ki-67 および MMP-9 と有意に関連していた。従って、これまで報告されている他がん種と同様に、UTUC においても WWC1 は癌抑制因子である可能性が示唆された。</p> <p>以上のように本論文は、泌尿器腫瘍学の発展に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			